

令和7年度
インクルーシブな学校運営
モデル事業
(中間成果報告会資料)



令和8年2月20日
静岡県教育委員会

静岡県におけるインクルーシブな学校づくり 「共生・共育」の推進

平成11年4月、伊東市立西小学校に東部特別支援学校伊東分校を設置した。小学校の通常学級、特別支援学級、通級指導教室に加えて特別支援学校分校が同時に存在し、多様な学びの場が用意された。静岡県では、「共生・共育」を合言葉に、小学校や高等学校に特別支援学校の共生を推進してきた。

平成7年度までに、小学校3校、高等学校12校に分校が設置された。

※小学校の1校は、小学校の再編のため単独分校に、1校は分校の児童生徒数の増加のため特別支援学校本校として移転新築された。

※高等学校には、2026年4月新たな分校が設置される。

特別支援学校高等部分校が併置されている高等学校

	設置年月	設置した高等学校	特別支援学校		設置年月	設置した高等学校	特別支援学校
1	2004年4月	駿河総合高等学校	静岡北特別支援学校 南の丘分校	8	2011年4月	浜松城北工業高等学校	浜松特別支援学校 城北分校
2	2002年4月	伊豆伊東高等学校	東部特別支援学校 伊豆高原分校	9	2013年4月	沼津城北高等学校	沼津特別支援学校 愛鷹分校
3	2006年4月	池新田高等学校	掛川特別支援学校 御前崎分校	10	2013年4月	焼津水産高等学校	藤枝特別支援学校 焼津分校
4	2009年4月	田方農業高等学校	沼津特別支援学校 伊豆田方分校	11	2023年4月	富士東高等学校	富士特別支援学校 富士東分校
5	2010年4月	磐田北高等学校	袋井特別支援学校 磐田見付分校	12	2024年4月	小山高等学校	御殿場特別支援学校 小山分校
6	2011年4月	松崎高等学校	伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校	13	2026年4月 (予定)	浜松江之島高等学校	浜松特別支援学校 江之島分校
7	2011年4月	富士宮北高等学校	富士特別支援学校 富士宮分校				

静岡県立田方農業高等学校における 「交流及び共同学習」

本校は1902年(明治35年)に開校し、令和3年に120周年を迎えた。そして、平成21年4月、沼津特別支援学校伊豆田方分校(高等部定員54人)を本校校舎内に迎えるとともに、ライフデザイン科セラピーコースの生徒を中心に分校設置以来17年間、両校による「交流及び共同学習」を積み重ねてきた。

※平成12年度、学科改変によりライフデザイン科が設置され、平成13年度から近隣の東部特別支援学校(肢体不自由)と「連携授業(交流及び共同学習)」を実施してきた。

静岡県立田方農業高等学校と 沼津特別支援学校伊豆田方分校との 「共生・共育」

静岡県立田方農業高等学校(東部地区農業教育の拠点校)

1学年定員200人(5cl)×3学年5科10コース

生産科学科(生産技術コース・生産流通コース)

園芸デザイン科(フラワーデザインコース・ガーデンデザインコース)

動物科学科(生産動物コース・動物活用コース)

食品科学科(食品加工コース・食品栄養コース)

ライフデザイン科(フードコース・セラピーコース)

静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校(高等部知的障害教育校)

1学年定員 18人(2cl)×3学年

清掃・園芸・木工・陶芸の4つの作業班を軸に学習

「共生・共育」（静岡県版インクルーシブ教育システム） の在り方について

令和7年4月
静岡県教育委員会

○「はじめに」から抜粋

本県としては、**多様性を尊重し合う人権教育**をしっかりと根付かせながら、これまでの「**一人一人のニーズに応じた学び**」を維持しつつ、**これまでよりも「共に学ぶ」機会**を保障できる学校体制を目指していくことが重要であると確認しています。

今後の本県の特別支援教育が「共生・共育」の理念の基、「**全ての**子供が、**できる限り同じ場所で共に過ごし、共に学び合い、共に育つ教育**」となり、共生社会の実現に向かうことができるよう、本冊子を策定しました。

両校の学びを支えるもの

両校の学びを支える**教育の基盤**には、「**人や社会等とのコミュニケーション能力の向上**」、「**他者理解・社会の理解**」という共通の視点(目標)があり、その上に必要な知識や技能を積み重ねている。

両校が求めている共通の視点がそこにあるから、「交流及び共同学習」が自然な形で定着してきた。

参考【高等学校学習指導要領解説 総則から抜粋】

障害のある幼児児童生徒などとの交流及び共同学習は、生徒が障害のある幼児児童生徒などとその教育に対する正しい理解と認識を深めるための絶好の機会であり、同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもあると考えられる。

本事業において目指す取組

今までの「交流及び共同学習」では、その目標を「人とのかかわり方」を学びの中心に置いてきたが、本来はさらに質の高い「学び」となる授業（交流及び共同学習）の展開が重要である。「楽しかった」、「うれしかった」、「充実していた」という心の動きだけでなく、より「知識となる学び」を重視し、生きる力につなげる必要がある。

教育的ニーズに柔軟に対応するためには、特設した「交流及び共同学習」ではなく、**すべての授業において多様な生徒に対応できる授業づくりが大切である。**

「交流及び共同学習」を発展的に進めるために、その教育課程上の位置づけや授業の見直しをするとともに、両校が一体となってその教育資源を最大限生かせるような体制づくりについて研究を進める。

令和7年度「交流及び共同学習」①

主な学校行事・特別活動

	時 期	行 事 名	備 考
1	4/10	対面式	田方農業高校生徒と伊豆田方分校生徒
2	5/30	体育祭	雨天により6/4に延期
3	7/22	学校美化活動	第1回
4	9/4	防災訓練	第2回を合同
5	11/7	田農祭（文化祭）	第1日目
6	11/8	田農祭（文化祭）	第2日目
7	12/22	防災訓練	第3回を合同
8	12/22	学校美化活動	第2回
9	3/9	伊豆田方分校卒業式	吹奏楽部演奏

全9日(回)

令和7年度「交流及び共同学習」②

交流授業(田方農業セラピーコースと分校作業班)

	実施日	学習集団	内 容
1	5/26, 6/9, 9/8, 10/14, 10/18, 12/15 2単位時間×6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザイン科セラピーコース2年生 ・伊豆田方分校作業学習園芸班 	プランター栽培 種のパッキング 播種・鉢上げ・定植 卒業式用花苗の栽培
2	12/16, 1/20 2単位時間×2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザイン科セラピーコース3年生 ・伊豆田方分校作業学習陶芸班 	陶芸製品作り (多肉植物用受け皿)
3	10/21, 11/18 2単位時間×2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザイン科セラピーコース3年生 ・伊豆田方分校作業学習清掃班 	清掃の知識と実際 伊豆仁田駅舎の清掃
4	7/15, 9/9 2単位時間×2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザイン科セラピーコース3年生 ・伊豆田方分校作業学習木工班 	木工製品作り (キーホルダー)

2単位時間×12回

※7/15は、授業研究会。 10/18は、オープンスクール。12/15は、公開授業研究会。

令和7年度「交流及び共同学習」③

交流授業（田方農業各科と分校学年）

	実施日	学習集団	内 容
1	6/2, 7/7, 10/27, 11/17, 2/16 2単位時間×5回	・動物科学科動物活用コース2年生 ・伊豆田方分校1年生	動物とのふれあい ウサギ、モルモット、 ハムスター、にわとり、チャボ、 ヒツジ、ヤギ、ポニー、柴犬、等
2	9/16 2単位時間×1回	・食品科学科食品栄養コース3年生 ・伊豆田方分校1年生	クッキー作り
3	11/12 2単位時間×1回	・食品科学科食品加工コース2年生 ・伊豆田方分校2年生	パン作り（あんぱん）
4	11/19 2単位時間×1回	・食品科学科食品加工コース3年生 ・伊豆田方分校2年生	クッキー作り
5	1/27 2単位時間×1回	・動物科学科生産動物コース3年生 ・伊豆田方分校2年生	乳牛の管理
6	10/28 3単位時間×1回	・ライフデザイン科フードコース3年生 ・伊豆田方分校3年生	調理実習[田農産サツマイモ] （みたらしあん芋餅）

2単位時間×10回

令和7年度「交流及び共同学習」④

交流授業（教科：体育）

	実施日	学習集団	内 容
I	10/17, 10/24, 10/28 1 単位時間 × 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田方農業高校 3 年生 ・ 伊豆田方分校 1・2・3 年生 	集団競技(選択球技)
	1 / 23 4 単位時間 × 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田方農業高校 1・2・3 年生 ・ 伊豆田方分校 1・2・3 年生 	新規 令和7年度から合同実施
7 単位時間			

その他の「交流及び共同学習」

区分	交流先	交流先
田方農業高校	東部特別支援学校高等部	いずのんこどもファーム
	三島錦田保育園	こころのままアートプロジェクト
	西部保育園	
	伊豆ライフケアホーム	
	認知症カフェ	
区分	交流先	交流先
伊豆田方分校	函南小学校	志cocoro(就労継続B型)
	三島南高校	
	伊豆総合高校	
	伊豆ゲートウェイ函南(道の駅)	
	函南町役場	

令和7年度

通常の高校の授業に分校園芸班が参加し
共同学習を行った（教科：野菜）**新規**

	実施日	学習集団	内容
1	9/11 2単位時間×1回	・田方農業高校3年生 ・伊豆田方分校園芸班	野菜の種まき
2単位時間×1			

※特設された授業ではなく、通常の高校の授業に、分校の生徒が参加した。

令和7年度 共生・共育連絡協議会

	実施日	参加者	内 容
1	4/14 第1回	高等学校 校長、副校長、教頭 教務主任、カリキュラムマネージャー	交流及び共同学習の 実施計画の確認 (要項の確認)
2	9/26 第2回	交流授業主担当者(特別支援教育コーディネーター) 各科長、各授業担当者(第1回のみ)	
3	3/17 第3回	特別支援学校 校長、副校長、部主事 教務主任 学年主任・作業班長(第1回のみ)	
年間3回			

※同協議会は、各分校設置前の準備期間中から、設置・協議がされている。

カリキュラム・マネージャー

- 1 カリキュラムマネージャーの主な経歴
 - ・ 特別支援学校教諭、中学校教諭(特別支援学級：知・情・[不登校])
 - ・ 県教委特別支援教育担当課 7年
(就学支援、高等部入学者選考、学校づくり、在り方検討等を担当)
 - ・ 県教委特別支援教育担当室・課長 5年、特別支援学校長 5年(会長)
 - ・ 特別支援学校長会事務局長・県教委教職員サポート相談員 5年
- 2 本事業における役割 (高校で任用、分校に常駐)
 - ・ 交流及び共同学習の実践の現状と課題の把握
 - ・ より良い授業づくりに関する相談・助言
(授業形態、学習支援の工夫、目標の設定、教育課程、等)
 - ・ 両校の授業づくりの考えや取り組み方の相互理解の調整
 - ・ インクルーシブな教育 (学校運営) に関する理解の深化

令和7年度 授業における取組 「ワークシート等の積極的な活用」

1 取組手順

- (1) 高校の生徒に対してもワークシートを活用する。
- (2) 高校・特支と異なるワークシートから**同一のワークシート**の活用。
同じシートで生徒同士が話し合いをすることで整理していく。
- (3) 併せて、**振り返りシート**を活用し、学びの振り返りを行う。
- (4) これらのシートは回収し、両校の教員が学習の状況を把握する。

2 成果

- ・ 生徒同士の活発な会話と学習の点検が見られ、授業を振り返ることができた。シートの中には、生徒の内面の動きも見られた。

3 課題

- ・ 学びを深める効果的なワークシートの準備が重要である。

令和7年度 授業における取組

「知識・情報をのがさない授業の展開」

1 取組手順

- ・ 教師の説明の中に、感覚的な説明や説明のない場面が見られる。
生徒が学んだことを**再現(般化)できる客観的な情報を提供する。**

例：マニュアルや手順書の活用

具体的な数字や名称をもって表現する

2 成果

- ・ 家庭等において、具体的に何を選択すべきかが具体的にわかる。
- ・ 授業における目標が具体化できる。

3 課題

- ・ 具体的に表現しにくい場面や、幅のある対応を行う場合の説明の工夫

令和7年度 両校の教育の理解を深める取組

- 1 両校教員が、それぞれの授業公開や研究授業の際に積極的に参加した。それぞれの授業の内容や指導法など具体的に知ることができた。
- 2 両校の学校運営協議会の第2回を合同で実施した。それぞれの学校の展望や課題を両校の委員によって協議することができた。
- 3 校内職員研修や授業公開をとおして、さらなる授業理解のきっかけとなった。支援が必要な生徒の学習評価の在り方や「教科等を合わせた指導」の目標の理解の難しさが多く出された。

令和7年度 授業形態に関する取組と課題

- 1 動物科学科動物活用コース2年生と伊豆田方分校1年生の交流授業は、昨年の3年生による年1回から2年生による年5回に変更した。動物活用コースの生徒が、普段の学習の成果を活用して継続的・系統的に分校生徒に伝えられるよう、単元的に年間を通した学習とした。
- 2 交流学習は、それぞれの学校での学びの成果を伝達する(確認する)場として、高校生が分校生に伝える、分校生が高校生に伝える場を設定している。
- 3 交流授業の教育課程上の位置づけは、高等学校は主に「生物活用」と「総合実習」であり、分校は「作業学習」と「総合的な探究の時間」である。教育課程上の位置づけと目標の設定について、さらに整理が必要である。

令和7年度 事業における視察等研修

- 1 校内職員研修（対応：カリキュラムマネージャー）
 - 7/22 伊豆田方分校
 - 1/21 田方農業高校
- 2 県外視察（対応：県教育委員会、校長、カリキュラムマネージャー）
 - 6/13 神奈川県立白山高等学校
 - 6/23 神奈川県立白山高等学校、神奈川県教育委員会
 - 2/4 兵庫県立阪神昆陽高等学校・兵庫県立阪神昆陽特別支援学校
- 3 海外視察（校長、アドバイザー大学准教授）
 - 1/26～31 スウェーデン

令和7年度 事業報告・啓発等

I 事業報告・啓発等

8/19 県総合教育センター研修会 (対応：授業担当者)

9/18 県高校・特支校長会委員会 (対応：カリキュラムマネージャー)

9/19 学校運営協議会 合同開催 (対応：カリキュラムマネージャー)

11/21 県高校・特支校長会研究協議会 (対応：校長)

12/25 特別支援学校分校・分教室連絡協議会

(対応：カリキュラムマネージャー)

1/20 高等学校特別支援教育地区研究協議会

(対応：カリキュラムマネージャー)

インクルーシブな学校運営について

これからの学校教育の背景（生徒数の減少、多様な実態と教育的ニーズの生徒の入学、等）の中で、より有効かつ効果的な学校運営の在り方を探る必要がある。（インクルーシブな学校運営の在り方）

それは、

- ・それぞれの教育資源を有効に活用
 - ・学習活動の活性化と連続した学びの環境整備
 - ・学校の運営の効率化と活性化
- など

何よりも、インクルーシブな学校運営が、生徒たちの「個別最適な学び」と「インクルーシブな教育」を実現する。

本事業における 令和8年度(最終年度)の取組

インクルーシブな学校運営による充実した教育を実践するため、県下の高等学校・特別支援学校に対し、具体的な取組をとおしてその**深化**に努める。

- ・教育課程上の位置づけの明確化と「**交流**」にとどまらない**質の高い「学び**」の形成
- ・両校による行事等の企画・運営を通じた**組織的連携の強化**
具体的には
- ・取り組み方の啓発のためのシンポジウムや研修会の開催
- ・分校等連絡協議会を高等学校・特別支援学校で合同開催
- ・切り口として喫緊の課題である学校防災対策を通じた**組織連携の推進**などがあげられる。